

町 長	副町長	課 長	主 幹	担 当	合 議

別記様式第4号

会議等結果報告書			
会議区分	会 議 ・ 打合せ ・ 協 議	文書番号	194
		決裁期日	平成22年 8月18日
名 称	上富良野町協働のまちづくり推進委員会（第4回）		
日 時	平成22年8月13日（金） 午後7時00分～午後9時00分		
場 所	上富良野町役場 第2会議室		
出席者	委員7人 町民生活課長、事務局1人 合計9名		

内 容

[進行：町民生活課長]

町民生活課長から、欠席連絡のあった委員について報告。

あいさつ

三島会長： 基本指針の読み合わせや意見交換を行い、指針の完成に向けて進めていきたいと思っている。

議題

1 協働のまちづくり基本指針について

基本指針（素案：前半部分）の協議

町民生活課長： 1～4は基本的なことを書いてあり、10ページからは役割、効果、町の現状の順に進むが、本来は町の現状が先に来てからそれぞれの団体の役割となっていくほうがいいと思う。

三島会長： 現状分析が先に来たほうがいいと思う。

持安委員： 序論ではなぜ協働が進められるのか、本論では課題、結論は推進策という流れで作ってあげればいいと思っている。

町民生活課長： 参考例の大分市の基本指針もそのような流れになっており、読む人も読みやすいと思う。ただ、先に「協働は」というのが出てきてもいいと思う。そして、うちの町ではどうかを紹介してからそれを元にどうしていくべきかを考えるという流れがいいと思う。現状と課題が最後に出ているのは違うと思う。

持安委員： 今の話の流れでいいのではないか。これをどうまとめるかが問題となる。

町民生活課長： 9ページまではこの順番でいいと思うが、10ページから14ページに書いてある現状と課題が10ページにくるといいう形になるかと思っている。目次でいくと1～4はそのままで10ページの「5 協働の主体的とその役割」の前に「8 上富良野町の現状と課題」が入り、8が5になる。また、その順番になると協働の原則も必要ないのかなと思うところもある。

松下副会長： 協働の原則を基本編に組み込むといいのではないかと。しかし、実際には協働の原則を基本指針に入れてもどうなのかと思う。

町民生活課長： それぞれのところで必要な項目を謳っており、どうしても協働の原則が必要というわけでもないで、ある程度作業をした上で必要かどうか話し合いたいと思う。入れるのであれば基本編のほうがいいと思う。また、「6 協働に期待される効果」は最後に持っていったほうがいいと思う。

持安委員： 流れからいけばそうかもしれない。

松下副会長： 流れとして、興味を持ってくれるかどうかが大変だと思う。自分でわかりやすくなるよう思い浮かべながら整理していくことが重要だと思う。

吉岡主幹： 現状と課題のところは慎重に書かなければ気分を悪くする方もいる。やれといわれたこともないのに、やってないのは当たり前である。

三島会長： 2ページからご意見をいただきたい。

町民生活課長： 「(1)協働の基本的な考え方」の「まちづくり分野における」という部分は、他の分野にも協働があるのかと思うので必要ないと思う。また、4行目の「信頼と理解のもと地域の」の部分は「もと」の次に「に」をつけるといいと思う。7行目「進めることです。」を「進めていくことです。」にするといいと思う。次の段落の3行目にある「協働のまちづくり」の部分は、「協働のまちづくりは、まちの構成員である町民、議会、行政のすべてが協働の意義を共有するところから始まります。」という表現にしたほうがわかりやすいと思う。

吉岡主幹： の「町民とは～指します。」という部分がどこかに出てくるのなら必要ないと思う。

町民生活課長： これは一番最初になっているため、必要だと思う。また説明の部分はうしろにあるよりも前にあるほうがわかりやすいと思う。

松下副会長： の公共的課題も後ろに説明があるが、このような言葉を使わなくても良いのではないかと。

町民生活課長： 公共的課題という言葉は一般的ではない。

松下副会長： このような言葉ももっと噛み砕いていかなければならないと思う。

町民生活課長： 公共的と言う言葉ではなく、地域の課題を解決していくという言葉でいいと思う。そして、用語解説の言葉もなくしていいと思う。

「(2)協働の理念」は後ろにも出てくるので必要ないと思う。

持安委員： 「(2)協働の理念」と4ページの～までは同じことだと思うのでどちらを消してしまうかを考えた方がいいと思う。町民の方々が読んでわかりやすいのはどちらかで決めたいと思う。

町民生活課長： 背景と必要性というまとめ方のほうがわかりやすいと考えている。

松下副会長： 3ページの中ほどの「協働の理念は、」という部分は落とせないと思う。協働の理念はこういうことだということで残しておくべきだと思う。理念という言葉ではなくても、自助、共助、公助という言葉は残していかなければならないと思う。

町民生活課長： であれば、5ページの「(2)求められる協働のまちづくり」の下から3行目からと協働の理念は同じ文章なので、その文章を上を持ってくれば、協働の理念を5ページの「(2)求められる協働のまちづくり」の「そのためには、」の前にいれればいいと思う。

三島会長： 求められる協働のまちづくりはいらないと前の会議でも言われている。

持安委員： どちらにもいいところがある。どちらかにまとめてしまいたい。一度課長が言うように「(2)協働の理念」を消してしまって、消したところがまた必要と思えばまた入れ

ばいいと思う。

町民生活課長： 松下副会長が言われた部分を5ページの「(2)求められる協働のまちづくり」に入れたいと思う。

持安委員： 図もわかりにくかったり、文章にあっていないものもある。

町民生活課長： では、「(2)協働の理念」の3ページ目の「協働は、～目指すものです。」までを5ページの「(2)求められる協働のまちづくり」の4行目「そのためには、～求められてきています。」の前に入れ、それ以外の部分を削る。

三島会長： 3ページまで終わったので、4ページに移りたい。

町民生活課長： 「(1)協働が求められる背景」の「しかし、～縮小してきました。」と「地域コミュニティの希薄化」が同じ内容なので、どちらかにまとめてしまったほうがいいと思う。

吉岡主幹： 前回久我委員が「(1)協働が求められる背景」の前半を削ると言っていたがどうだろうか。また、日本海の重油流出事故は必要ないと思う。

町民生活課長： 「(1)協働が求められる背景」の前の部分があってそこから、と続いていくのはおかしいと思う。ここで謳っているのは、国のことであり、その後うちの町のことを書いている。ここでは日本の国の流れを説明しているので、「町民ニーズの多様化」や「町民意識の高まり」はここに載ってくる文章ではないと思う。

吉岡主幹： ニーズの多様化ではなく、ニーズの方向性が変わっていると思う。ニーズが細かく多様化しているため、標準的な公共サービスでは対応できないので住民の方の力を借りたいという前段となっている。

持安委員： 課長が言ったように、これは全体のこととして捉えて、町民としての背景は最後に持っていきほうがまとまりやすいと思う。また、本当に必要な場合は削ってしまうといいと思う。そして、主幹が言われたような表現の方向に持っていきといいと思う。

町民生活課長： 、などという表現を使わず、一般的な表現ですっと抑えていったほうがいいと思う。そして、後段に阪神・淡路大震災のこともあって情勢が高まってきたというふうにしてもいいと思う。

吉岡主幹： この点を読みやすくしたものを事務局で作成し、次回会議で渡したいと思う。また、阪神・淡路大震災の部分を強調したいと考えている。

三島会長： 次は6ページにいきたいと思う。

町民生活課長： 「(1)協働の分類」はそのままがいいと思う。

持安委員： 極端に言うと「(2)協働の領域」と「(3)協働のパートナーとその分野」を削ってしまいたい。

町民生活課長： 「(2)協働の領域」の文章で気が付いたのは「町民と行政が～できる領域について考えてみると、次のように～。」を「できる領域は、次のように～。」とし「これが町民と行政が目標を共有し、協働を行いやすい領域といえます。」を「これが町民と行政が目標を共有する協働の領域です。」というふうにするといいと思う。図では協働の領域がわからないが、B、C、Dは協働の範囲であり、Aは町民主体で行政が関わっておらず、Eは行政が行っていて町民が関わっていない。また、責任の分野がどのような範疇が表している。次に活動例の説明が不十分なので、Aは町民がというのを先に持ってきて「町民が主体的に～します。」というふうにしたらいいと思う。Bは「町民の自主的な環境美化活動に、行政が補助金で支援します。」としたら良いと思う。Cはこのままでいいと思うが、Dもわかりづらいので「地域で管理しているゴミステーションに町民が分別したゴミを、行政が回収し処理します。」とい

う方が良いと思う。Eのほうは運営が抜けているので「クリーンセンターを管理運営し、～します。」という書きの方がわかりやすいかと思う。

吉岡主幹： 町民と行政が合わさって協働といているが、「(1)協働の分類」では「町民相互の協働」と入っているが、うちの町でいう協働は行政と町民の協働だが、町民同士だと協働というのだろうか。

町民生活課長： 具体的な内容になれば8ページの協働の形態でうちの町の協働の形を紹介し、さらに34ページから事例の紹介をしている。これは単なる協働の分け方の説明であるので、このままでもいいと思う。

次の7ページにいてもいいだろうか。「(3)協働のパートナーとその分野」ということだが、表の真ん中に特性があるがこれはあまり必要ないと思った。皆さん読まれてどう思っただろうか。

持安委員： 課長の意見に賛成である。

(その他にも賛成の声が上がる。)

町民生活課長： それでは表の中の特性は削除したいと思う。また、上の図6も左側の協働のパートナーと同じような並びにしたほうが良いと思う。図6の上2つの丸と下2つの丸を入れ替えた方が説明の表の文章と同じになると思う。また、図6の字が小さいのでカッコはなくし、表の中で四角で囲まれている部分だけを書けば良いと思う。7ページで他に何かあるだろうか。

三島会長： ないようなので8ページに移りたいと思う。

町民生活課長： 協働の事例のページ数を載せるのであれば、ページ数の若い順から入れたほうが良いと思う。40ページから始まって次が38ページになっているのは違和感があると思う。しかし9ページにはさらに若いページ数もあるので、このままの順番にするのか、事例のページを合わせていくほうが良いのか決めたいと思う。

吉岡主幹： 協働の形態の並び順は良いと思うので、事例の順番を変えていったほうが良いと思う。また、共催と後援というのは明確に違っている。

町民生活課長： 協働事例の紹介は載せたほうが良いと思う。であれば、(1)～(7)までの順番はこれでいいのだろうか。

松下副会長： 例えば、40ページのリフレッシュ・マイタウン・かみふらのの協働の形態は(1)と(3)があったりするので、ページ数が合っていない。

町民生活課長： 協働の事例の団体ごとに番号を振っていき、ページ数と番号を書かなければわからないと思う。もしくは、事例ごとに並び替えるとわかりやすいかもしれない。

吉岡主幹： 形態が複数入っているものは下のほうに入れたほうが良いと思う。

松下副会長： そうではなく、一連の番号を振っていき事例と協働の形態を連動させるといいと思う。例えば34ページの旭住民会の協働の形態は「(4)事業協力・協定」と「(5)補助・助成」なので、1番という番号をつければ、1番の旭住民会は(4)にも(5)にも入っていることがわかると思う。

吉岡主幹： 協働事例の見直しも必要だと思う。

町民生活課長： それぞれの事例に番号を振って、わかるような形で載せることにする。表現はこれでよろしいか。

持安委員： 協働事例に番号を振って、次の段階としては協働事例と協働の形態が本当に合っているのか話し合わなければならない。

吉岡主幹： 準備委員会の時にはそのような時間がなかったため確認する必要がある。

町民生活課長： 8ページの文章表現はどうだろうか。「(1)町政への町民参画及び政策提案」の4行目だが、「町民の生の声を聞くことに～可能になります。」というところを「町民の生の声を聞くことにより、町民のニーズが各種計画の策定や町の仕事に反映されます。」にしたほうがわかりやすいと思う。次に「(2)共催・後援」の「町民と行政が～行う形態です。」を「町民と行政が主催者もしくは行政が後援して事業を行う形態です。」にするといいと思う。9ページにいいだろうか。「(6)委託」の「行政が直接実施するよりも」と、「企業等」の「等」、その下の段の「が実施するほうが効率的で、」を削除し、2段目の真ん中の「専門的な知識～町の仕事」が最初に来て「企業や町民活動団体などに委託する形態です。」をつなげるといいと思う。全てあわせると「専門的な知識・技術・設備などを必要とする町の仕事、企業や町民活動団体などに委託する形態です。」といったほうがわかりやすいと思う。

松下副会長： (指定管理者)はいるだろうか。

吉岡主幹： この表現だと委託とは指定管理者そのもののように見えてしまう。委託の中に指定管理者もあるというという意味である。ここからは省いて、説明文の中に入れるか、まったく触れないほうがいいと思う。

町民生活課長： 指定管理者と入れなくてもいいと思う。

吉岡主幹： ではパークゴルフ場の写真も差し替えにしたいと思う。

町民生活課長： 次の後半から時間がかかると思う。先ほど順番を変えた14ページに進みたいと思う。まず、現状と課題がリンクしていないと感じた。それぞれ載せている分類ごとに課題を載せればいいが、素案では書き方が違っている。また方策についても作りが違う。

三島会長： 時間も迫ってきたので14ページを進めていきたい。

町民生活課長： 順番が変わったことによって「町民(個人)・地域コミュニティ」の「地域コミュニティ」のあとに10ページのように「地域コミュニティ(住民会・町内会等)」と入れなければならないのではないか。また、「町民活動団体」にも「町民活動団体(ボランティア団体・NPO等)」と入れなければならない。の内容だが「地域の安全は地域で守ることから行っている安全パトロール」というところが変だと思う。

松下副会長： 「地域の安全は地域で守る」という言葉は住民会組織で重要な言葉となっている。この言葉を生かしていきたい。

町民生活課長： 「地域の安全は地域で守ることを目的に安全パトロール～」にするといいと思う。続けて「安全パトロールをはじめ、地域の美化活動～」を「安全パトロールや地域の美化活動～」にしたほうがいいと思う。また「主体性のある～見え始めています。」もくどいと思う。

松下副会長： 「主体性のある活動をしています。」くらいの表現がいいと思う。

町民生活課長： 「これらの活動は、～持ち合わせています。」というところも馴染まないので削りたいと思う。

吉岡主幹： 「しかし、～現状もあります。」は久我委員が削りたいといていた部分だった。

町民生活課長： 「しかし、」だけを削って他を残さなければこのあとに続かないと思う。「このような取り組みは、まだ全町的な広がりになっていない現状であり、今後は～求められています。」としたほうがいいと思う。

松下副会長： 「求められています。」というのは現状ではなく課題ではないのか。

町民生活課長： 確かに課題になってしまうので、「このような取り組みは、～現状であります。」にし、その後ろは全て消してしまってもいいと思う。しかし、こんなに削ってしまうと住民会などではもうすこし活動をしているのに簡単に終わってしまうように感じる。

吉岡主幹： 事例のほうからいくつか参考にしたほうがいいだろうか。

町民生活課長： 後ろも事例があるので、取り組みを入れて活動していることを紹介していきたい。

松下副会長： 今の「 町民(個人)・地域コミュニティ」では地域コミュニティの部分でしか書いていないので、数は少ないかもしれないが町民個人のこともしゃい上げられればいと思う。

吉岡主幹： 個人というのはないかもしれない。

持安委員： 戻ってしまってすまないが、4ページの地域コミュニティの希薄化とあるが、うちの町もそのとおりなので、今の現状とこれからどうなっていくか、この現状の部分で書かなければ、他に書けるところがなくなってしまうと思う。

町民生活課長： 町の福祉計画などで今後の上富良野町を謳っているものがあるので、それを見て書いていけばいいと思う。「町民・地域コミュニティ」の前の前段に町全体の現状を入れたいと思う。

三島会長： 今回は時間になったので、次回の日程を決めて終わりたいと思う。

2 その他

松下副会長： 今日はさまざまな議論をしたが、どこかで直したものを出示してもらえるのだろうか。

町民生活課長： 次回までに直したものを出示していきたいと思う。また、ある程度事務局で作っていったものを見てもらったほうが早いと思う。素案のデータがあるので修正したところを直し、順番なども並び替えたものを次回渡したいと思う。

吉岡主幹： 次回は、8月23日、19時にしたいと思う。

閉 会

[会議終了 : 21 時 00 分]

上富良野町協働のまちづくり推進委員会 委員名簿

任期：平成22年6月29日から平成24年3月31日まで

4

	所属団体・機関の名称	氏名	備考	8月13日
1	住民会長連合会	上村 勉		
2	住民会長連合会	松下 力		
3	社会福祉協議会	持安 弘行		
4	NPO法人たんぼぼの会	三島 功士		
5	ふらの農業協同組合上富良野支所	瀬川 英樹		
6	商工会	境 一義		
7	生活安全推進協議会	島瀬 良一		
8	女性連絡協議会	中澤 正子		
9	リフレッシュ・マイタウン・かみふらの	奥田 哲也		
10	公募	大内 和行		
11	公募	徳武 良弘		
12	公募	久我 みち子		
13	公募	平倉 範子		

7